

生涯学習やまがた



遊学館 玄関ホール

Contents もくじ

- | | | | |
|----------------------|---|-----------------|---|
| ● 対談「山形的生涯学習を探る」 | 2 | ● 地域の取り組みを紹介します | 7 |
| ● 生涯学習情報提供システムリニューアル | 5 | ● Information | 8 |
| ● 山形県生涯学習センターが主催しました | 6 | | |

特集「山形的生涯学習を探る」

【対談者】実践者 小田島健男氏 × 学識者 安藤耕己氏

山形県生涯学習センターが誕生してから25年を迎えます。この節目にあたり、山形県の社会教育・生涯学習に長年携わってきた実践者小田島氏と、県内外の社会教育・生涯学習に精通する若手教育学者安藤氏をお招きし、山形的生涯学習の過去・現在・未来について熱く語っていただきました。

山形における生涯学習の変遷

——山形県の生涯学習はどのように始まったのでしょうか。国の動きも含めてお聞きしたいと思います。——

安藤 藤…国の動きとしては、急激な社会の変化に対応するための学習のあり方として、昭和46年に「生涯教育」が答申上にあられ、昭和60年代半ばの臨教審答申を境に「生涯教育」を包含する「生涯学習」の理念が示され、平成2年に「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」が制定されました。その後から、各地で「生涯学習のまちづくり」が謳われ、生涯学習の総合行政化の潮流が生まれました。

小田島…山形県ではそういった流れを受けて、昭和52年に生涯教育推進懇談会が設けられ、生涯学習の検討が始ま

小田島…当時の秋田県知事も生涯学習を県政の柱にしていたし、東北6県で職員同士の交流もあったから、その可能性もあるかもしれません。

山形県では生涯学習センターを核に生涯学習の普及啓発を中心にすえ、各種講座の開設や情報提供・学習相談などを通じて県民の学習活動を支援してきました。二元化した学習情報提供システムの構築では市町村とのつながりも非常に強くなったし、「山形学」を中核にすえて地域学の普及も図りました。財団の特徴を活かし、行政指導ではなく事業を通して市町村や各種地域づくり団体などと連携していこうと考えていました。平成13年には山形で全国生涯学習フェスティバルが開催されました。「山形学」を核に全国地域学サミットを遊学館で実施したのもこの年です。本県の生涯学習の二応の普及啓発が図られたという見方もあり、このあたりから転換期に入ったと言えるかもしれません。平成14年の第3次山形県生涯学習振興計画では、成熟社会の中で個人学習や楽しむ学習が反映された計画となりました。県行政全体が、生涯学習センターを含む法人や団体に向向していた職員や教員を引き上げる方向に動き出したのもこの頃からと聞いています。

安藤 藤…着手は全国的にも早い方ですね。ただ実は、お隣の秋田県では全国に先駆け昭和45年に生涯教育研究プロジェクトチームが設置され、昭和48年に秋田県生涯学習センターが開所しています。隣県の秋田県に刺激を受けたというところも考えられますね。

安藤 藤…全国的には平成18年の教育基本法改正前後から「生涯学習による



まちづくり」が各地で謳われるようになり、さまざまな地域課題を前に、再び個人より地域やコミュニティに目が向けられるようになっていきますよね。さらには「生涯学習としてのまちづくり」というように、地域づくり自体が生涯学習というような表現をされることもあるようです。

山形の生涯学習の課題

——山積する地域課題に生涯学習も正面から取り組まざるを得ない時代ということかと思いますが、そういった中

での山形県の生涯学習の課題について
お聞きしたいと思います。――

安 藤…そうですね、地域づくりなどに取り組んでいくことが、果たして今できているかということでしょうか。そこには、地域づくりの支援者、伴走者としての職員育成や人材育成の課題もあるかと思いますが。

小田島…人材育成にどのように取り組むかは非常に難しい課題だと思います。昭和年代の県内各市町村では職員と地域の住民がぶつかり合って提案したり逆提案されたりして事業を構築する機会が多く見られました。そのような経験をする中で職員も能力を伸ばしていったと言われています。しかし現在、市町村の現場では予算も限られ、住民とコミュニケーションをとる十分な時間を確保することも難しい環境にあるという声をよく耳にします。

安 藤…なるほど、研修などで同じ困難を抱える職員同士が学び合い、モチベーションを高めて現場に戻っても、なかなか成果を活かすことも新しいことに取り組むことも難しい環境ということですね。そういった現場環境のケアやフォロワーも県の役割としては重要になってきますね。

小田島…そう。市町村の支えとして、教育事務所が機能できるような環境づくりや、生涯学習センターの研修などを通して、市町村の意向を吸い上げて、共通する課題をつなぎ、実践交流できるような条件整備が必要かもしれないね。

安 藤…なるほど。それから、山形は県としての調査研究が弱いと思いますがどうでしょうか？例えば、岩手県では、県直営の生涯学習推進センターが調査研究と研修に特化して、県民の生涯学習実態調査なども行っています。予算の問題もあり、そこまでできずに審議会や社会教育委員の声を聞くことで済ませ



がちですが、地域住民の要求を汲み取るという点で本当はやらなければならぬことですよ。

小田島…岩手県と山形県とは立ち上げ当初から、生涯学習センターの機能が異なっています。ただ、山形県の場合、調査研究機能は岩手県と比べて弱いと言えるかもしれませんね。一方で、山形県の生涯学習センターは「山形学」を中核にして地域学の普及啓発に取り組んできて、全国的にも評価されていることは自負してもいいと思いますよ。

山形的生涯学習のこれから

――人材育成や調査研究の課題をあげていただきましたが、山形県の生涯学習のこれからのためにはどうお考えでしょうか。大事にすべき視点や方向性、具体的なご提言などについてお聞きしたいと思います。――

小田島…今度の第4次山形県生涯学習振興計画でも「個人の要望と社会の要望にこたえるバランスのとれた生涯学習」と謳っています。個人の要望と社会の要望は相反するものではなく、必ずオーバーラップして、つながっていく、変わっていくんです。だからまずは、人の関わりやつながりをつくることができ

る場を保障することですよ。

安 藤…最近ではえてして趣味教養講座は必要ないという声がありますが、それは違いますよ。そういった楽しみを通して人と人がつながっていくわけです。それから公民館の活動でリーダーが多いことが問題になることもありますが、結果として、公民館に来て人とながついていくことで、新しいことに関わっていくプロセスがあるわけです。だから、その土俵にどう引張ってくるか、あるいは土俵にのってきた時にどう支援するかが重要ですよ。

小田島…そうですね。行政にいた頃は必要課題のことはかり考えていましたが、自分も高齢者になって「キョウイク（今日行くところがある）・キョウヨウ（今日用事がある）」ということがいかに大切に気がつきました。どこかに行く人とつながってまた別のことにつながっていく、そのようなとらえ方が生涯学習についての一般の人の理解の仕方かもしれません。そういう実態も踏まえて考えていかないといけないと思います。

安 藤…ええ、地域活動の実態も、自分たちのしていることが「生涯学習」や「社会教育」だと言っている人はおそらくほとんどいない。生涯学習や社会教育が地域で機能している先進事例を

みると、ここからが教育、ここからは福祉といった境界や垣根もないわけで。それをどう取り払えるかではないでしょうか。川西町のNPO法人「きらりよしじまネットワーク」では社会教育の手法による学習を大切にして、その中心施設が公民館ではなくても、本来の公民館のあるべき姿を意識して地域経営を進めています。生活の維持、生涯現役、

どうすれば地域がまわるか、境界や垣根を取り払って、住民に見えやすい多様な生涯学習のサービスを自分たちで作りに出しているわけです。「公共」は必ずしも行政が担うものでもないですからね。うまくいっている住民組織や団体は、行政や私を含めての研究者までもうまく「使って」地域づくりを進める力を持っています。

それから、山形には豊かな地域文化がありますよね。それら地域文化や地域資源の掘り起しを核として、二年の活動をまわす中で、老若男女、それぞれの世代がつながり、各々の役割を取得していくということもあると思います。

小田島…私は昭和45年から山形県の社会教育や生涯学習に携わってきました。とにかく人との関係を自ら求めてくついでいくことが大事だと思って歩いてきました。裏返せば、これまで続けることができたのは多くの人の支えがあったからだと思っています。キーワードは“人

との関わり”だと信じています。

それから、私にとつての生涯学習・社会教育の目標は、地域に住む一人ひとりが自治能力を有するいわゆる「市民」になることのプロセスだと考えています。その想いは今でも変わりません。山形県の生涯学習がそのような方向に向かつていくことを願っています。

安藤…なるほど。生涯学習や社会教育によって、そういった社会・地域そのものを創っていく力を育てていきたいですね。長井市で地域文化を核に積極的に地域づくり活動をしている「ぼくらの文楽」という団体の若者に話を聞く機会があったんですが、彼は「自分のため、家族のためにやっているんだ」とはつきり言うんです。でも一人ではできないから人を巻き込んで地域でつながっていく。いわゆる「私事性」からはじまり、「公共性」を帯びて展開していく活動の例ですね。世のため人のためということが先に立ってはやりづらいものです。まずはここで暮らしていきたい、働いていきたい、楽しみたい、そのためにどうするのか、何が必要なのか。こういった生活世界の中からの視点が必要なのではないでしょうか。さらにいえば、今の中学生や高校生が20年先をそれなりに想像できるような生活、地域のあり方にするためにも、地域で生きていく、地域で働いていく、そういったことに生涯学

習や社会教育が積極的に関わっていければと思います。

なお、最後に改めて。「生涯学習」は人びとが生涯にわたって、学校教育・社会教育・家庭教育での領域の学びに適宜アクセスしていくことが保障されるという概念です。「いつでも、どこでも、誰でも、どんなことでも、どんな方法でも」学ぶことができるということとわかりやすいでしょうか。生涯にわたって、そのときどきの状況や欲求に従って子ども・若者、大人たちもそれぞれ近未来を見通して生きていくことができる、こういった生涯学習の具現化には行政や住民の



▶プロフィール

小田島 健男

[おだしまたてお]

山形県青年の家、教育庁社会教育課、教育センター社会教育部を経て、(財)山形県生涯学習文化財団学習振興部長、遊佐町教育長を歴任。H26年度から山形県社会教育委員。



▶プロフィール

安藤 耕己

[あんどこうき]

筑波大学大学院単位取得退学後、筑波大学助手、吉備国際大学准教授等を経て、現在は山形大学地域教育文化学部准教授。H26年度から山形県社会教育連絡協議会会長も務める。

主体的な活動に加え、NPOや企業などの協働が求められます。関係者間でビジョンを共有していかなければなりません。

——山形の未来を創り、山形の未来を見通して生きていくための生涯学習の具現化にむけて、これからも微力ながら尽力してまいります。本日はありがとうございます。——

リニューアル!!

山形県生涯学習情報提供システム



やまがたマナビnet

平成12年4月にスタートした山形県生涯学習情報提供システムが、12月8日にリニューアルしてさらに使いやすくなりました! 県内の生涯学習・文化関連の講座やイベント情報、指導者や団体情報など、様々な情報をインターネットで提供していますので、今までご利用にならなかったことがない方も、この機会にぜひチェックしてみてくださいはいかがでしょうか。

■ 講座・イベント

「講座で何かを学びたい」「自分の住んでいるまち以外のイベントに行きたい」と思っても、すぐに情報収集ができないことはありませんか?そんな時こそ、山形県内の様々な講座やイベントを掲載している【講座・イベント】で検索。『開催地域』『講座・教室』『イベント』『年月』での検索も可能です。

カレンダーの日付をクリックすれば、その日の情報が表示されますので、休日の予定を立てるのにも便利!

■ 団体・グループ

やりたいことがはっきりしていて、同じ志や趣味を持つ仲間を増やしたい方は【団体・グループ】をチェック。山形県内で活動している団体を『ジャンル』と『団体所在地市町村』で検索できます。活動内容だけでなく、入会方法も掲載されていますので、サークルや仲間探しにうってつけ!連絡先が明記されていない場合は、山形県生涯学習センターへご連絡ください。お取次ぎいたします。

■ 講師・指導者

講座や教室等を企画する際に、重要になるのが講師の選定ではないでしょうか。『対象者』『ジャンル(指導分野)』『講師居住市町村』の条件で検索できますので、「PTAを対象」「家庭教育の分野」「山形市内」といった希望がある場合でも探しやすいシステムになっています。講師の活動履歴も掲載!詳細ページに連絡先が明記されていない場合は、山形県生涯学習センターへご連絡ください。お取次ぎいたします。

■ 施設

写真や書道などの創作作品の展示場所や、ダンス・演奏の発表会の場合、運動やレクリエーションを行う施設をお探しの方は、山形県内の施設を検索!施設のホームページのリンクを張っておりますので、そちらで詳細をご確認いただけます。

ホームページがない施設は、住所、電話番号、地図のみ表示となっていますので、詳細は各施設へお問い合わせください。

総合文化情報

山形県内の文化情報に特化しているデータベース。施設や団体・グループを検索することができます。内容は生涯学習データベースとリンクしています。

マナビカレッジ参画講座

「学びたい」人を応援するためのまなびの機会を提供。【講座・イベント】情報の講座のみを集めて、7種類のジャンルに分類しています。講座検索ならおまかせあれ!

情報発信したい方は?

やまがたマナビnetへの登録、掲載を希望される方は、ホームページ内の「情報の登録・掲載を希望される方へ」を確認のうえ、山形県生涯学習センターへご連絡ください。

山形県生涯学習センターが主催しました!

読み聞かせボランティア指導者講座

小学校や図書館、保育園などで活動されている読み聞かせボランティアリーダーのための講座を開催。講師に佐藤涼子氏をお招きして、絵本の紹介や実演も交えながら、年齢や季節に合わせた「お話し会」のプログラム作りについてお話いただきました。ストーリーテラーとしてもご活躍中の講師の「語り」に、会場全体が惹き込まれた様子。プログラム作りの奥深さとともに、「語り」の素晴らしさ、ボランティアの役割について、改めて考える講座となりました。



とにかく幅広く、たくさんの引き出しの中から、目的に合わせたプログラムを組み立てていく大切さを教わりました。

参加者 Voice

仙人講座

青島広志氏の奏でるピアノに合わせた合唱で、盛り上がりを見せた第1回。第2回の大谷徹英氏による分かりやすい説法では、仏教を身近に感じ、第3回清水国明氏の話の中からは、琴線に触れる言葉がいくつも飛び出しました。第4回の宮田佳代子氏にコミュニケーションの極意を学び、瀧川鯉昇氏による落語に大いに笑った第5回。11月7日の閉講式にて、最後の修了生代表の方に修了証書をお渡しし、24年間続いた「仙人講座」はその長い歴史に幕を閉じました。



働くだけでは自分の成長がないと思って初めて参加しましたが、各講師の魅力的な話に活力をもらい、自分にもできる何かがあることを教えてもらいました。

参加者 Voice

作家トークショー

直木賞作家・逢坂剛氏と時代小説家・諸田玲子氏による豪華トークショーを「小説家になろう講座」と共催で開催。「時代小説の面白さとは?—池波正太郎と藤沢周平の魅力に迫る」をテーマに、お二人が時代小説を書くきっかけとなった出来事、創作秘話、好きな池波・藤沢作品、自作の評判や批評などについて語っていただき、愉快で話の尽きない素敵な夜となりました。



旬のお二人の生のお声を聞くことができとても幸せな時間でした。美しい正しい日本語でのお話しぶりで、安心してお聞きすることができました。

参加者 Voice

地域文化創造セミナー

「地域コミュニティ再生のヒントを探る」をテーマとし、庄内、置賜、村山の3会場で開催。庄内では、米沢市文化課主幹の青木昭博氏による講演で、上杉鷹山と庄内地方の関わりや、現代の課題に通ずる鷹山の政策について学びました。鷹山は、自治体首長や会社のトップからの人気の高さがトップクラスだそうです!置賜・村山会場では、東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科の岡崎エミ氏を講師に迎え、事例紹介には皆さん熱心に聞き入り、その後はチームビルディングのゲームをして、楽しみながらワークショップの手法を学びました。



参加者 Voice

鷹山の政策、藩経営については、ぜひ県内一円に伝えて、県民に知っていただきたい知的刺激のある講演でした。

ワークショップの方法論(対象にあわせてプログラムを組み替える等)を実際に体験できて、とても勉強になりました。

このまちに
注目!

地域の取り組みを紹介します

山形市 若者支援事業

『モテ塾 ～仲間・楽しみ・自信がモテる！～』

■内容■

モテ塾は、若者を対象にした半年間のシリーズ講座で、今年度2年目を迎えました。

地域との関わりの希薄化・同世代との交流機会の減少等、現代の若者を取り巻く課題を背景に、将来的には地域を担う人づくりに繋げていきたいと考えています。講座の企画時には、第1に参加者同士が関わり合い、楽しみながら学ぶことができる事業づくりを大切にしています。今年度はコミュニケーション講座や、パワースポット巡りなど全10回の講座を実施しました。参加者の声を活かすべく、来年度からは実行委員会を組織して、事業の企画から参加者に関わってもらいたいと考えています。

■ここが大変■

より多くの若者に関心をもってもらえるよう、募集の広報には特に力を入れました。

■ここがうまくいった■

約半年間、同じメンバーで事業に参加することになるので、参加者同士のつながりが自然と深まっていったことです。

「自分ではチャレンジしないかも」、「こんな考え方するんだー」と同年代の仲間との様々な企画を通して感じました。貴重な体験と素敵な仲間に出会えた半年間でした。

参加者 Voice



南陽市 青年教育推進事業

『山形花笠まつり出場大作戦』

■内容■

南陽市青年教育推進事業では今年度、青年対象の講座「花笠まつり大作戦！」を実施しました。花笠まつりへの出場を通し、地域の文化や資源を再認識することが目的です。

全5回の講座では、花笠文化の学習と踊りの練習を行い、山形人としてのアイデンティティの修得と参加者相互のつながり作りを目指しました。

本番、沿道からは「南陽市、頑張れよ！」の声援もいただき、発する掛け声もより大きなものに。全員が笑顔で踊りきり、まつりの魅力と人をつなぐ力を実感できた講座となりました。

■ここが大変■

講座開始直後の7月9日に大規模水害に見舞われ、2時は練習も難しい状況となりました。

■ここがうまくいった■

ご支援への感謝の思いを踊りに込めようと、水害から立ち上がる意志を確認し、結果的にチームの結束が強まることになりました。

本番でちゃんと踊れるか心配しましたが、楽しく踊れてよかったです。笑顔忘れずに最後まで行けたので自分でもびっくりしました。また来年も出たい気持ちです。

参加者 Voice



朝日町 いくつになっても学び続ける

『あさひまちブランド大学』

■内容■

「人が変わる」とは、一体どういうことでしょうか？それは「いくつになっても学び続ける」ということ。そこで始まったのが、〈あさひまちブランド大学〉。朝日町の中心地で行われる講義は月2回の開催で、会社・お店・個人のブランド化に関することを学べます。各授業は独立していますので、途中参加も大歓迎。町民はもちろん、町外の方も受講無料。全国からやってくる強力な講師陣に惹きつけられ、多くの方が集まり、大変な盛り上がりを見せています。

■ここが大変■

当初は50名程度の受講を想定していましたが、100名を超える学生が集まり、運営が大変でした。

■ここがうまくいった■

「明日からできる！」を大切にしています。講義内容を実践される方を見かけることが何より嬉しいです。

村尾さんをはじめとした講師陣はエネルギーが溢れる方々ばかり。講義は毎回楽しく、ワクワクする内容で社会の価値観や仕事観が劇的に変わりました。

参加者 Voice



四半世紀にわたり、受け継がれてきた記憶の記録 『山形学 山形における地域学の成立と展開』

豊かな地域づくり人づくりを目指す「山形学」は、平成元年の構想スタートから四半世紀をむかえました。25年にわたる理論の変遷や、追求の成果をまとめた本書は、「地域学」の今後の展望を示します。地域学関係者、地域づくり活動者はもちろん、山形を愛する方へもお勧めの一冊です。

お買い求めは、県内の八文字屋・戸田書店・宮脇書店(山形店・天童店・清水屋店)
または山形県生涯学習センターまで! A5版380頁 定価1,620円
TEL:023-625-6411 E-MAIL:yama@gakushubunka.jp

〈平成26年8月24日山形新聞掲載の結城登美雄氏(民俗研究家)書評より抜粋〉

「山形学」のテーマは多岐にわたり多彩である。県内の山、川、道、食、農、環境、四季、祭り、花、雪、技、祈り、方言、音楽、観光、歴史、人物…など、まるで県内にある地域資源のすべてを掘り起こそうとするかのような迫力にみちた多様なテーマである。(中略) これまで一県でこれほど地域資源に対して自覚的かつ持続的に英知とエネルギーが投入された例はないのではあるまいか。ある意味で本書は、山形県民と行政や関係者が共働によって手に入れた、次代に生かすべき貴重な地域資産目録でもある。



【第1回洗心庵写真コンテスト入選作品展】

平成26年10月から12月の間に、洗心庵園内で撮影した作品を募集しました。洗心庵の四季の彩りを巧みに表現したコンテスト上位入賞作品を展示いたします。

日 時 平成27年3月7日(土) から平成27年3月21日(土)
時 間 9時から17時まで 場 所 洗心庵 多目的ホール
展示作品 最優秀1点/優秀2点/佳作10点/計13点

〈問い合わせ先〉山形県生涯学習センター分館 洗心庵 田中
・住所 山形市緑町1丁目4番28号 ・電話 023-664-2800

洗心庵の冬期間 [12月~3月] の利用について

〈開館時間〉9:00~17:00
※夜間利用がある場合は
21:00まで

〈利用について〉
庭への立ち入りはできませんが、館内はご利用いただけます。

編 集
後 記

モンテディオ山形が悲願のJ1復帰を達成しました。GK山岸選手が「チームが自分の意見を聞いてくれたから」と語られたように、お互いの学び合いから生まれた勝利だったのだと思います。人との関わりが成長を生んだ、素晴らしい実例ですね。(樋口)

次回発行は3月の予定です

編集発行 (公財)山形県生涯学習文化財団 平成26年12月発行

山形県生涯学習センター 〒990-0041 山形市緑町1-2-36[遊学館 3F]
TEL 023-625-6411 FAX 023-625-6415 E-mail yama@gakushubunka.jp URL http://www.gakushubunka.jp
■開館時間 9:00~21:00[夜間利用が無い場合は19:00まで]
■休館日 毎週月曜日、毎月第3日曜日、年末年始

洗心庵 [山形県生涯学習センター分館] 〒990-0041 山形市緑町1-4-28
TEL 023-664-2800 FAX 023-664-2816
■開館時間 9:00~21:00[夜間利用が無い場合は19:00まで]
■休館日 毎週月曜日、毎月第3日曜日、年末年始